横浜市立 榎が丘小学校　平成30年度版　中期学校経営方針　（平成28～30年度）

学 校 概 要

創立　45　周年	学校長 朝日　豊彦	副校長 堀　慶司	学期　2　学期制	児童・生徒数　633 人
学級数 一般級:　19　個別支援級:　2		主な関係校: 青葉台中学校		

学 校 教 育 目 標

豊かにかかわり合い、しっかり学ぶ、心身ともに健康なえのきの子
〇自ら学び、活用・探求する力をもった子どもを育てます。（知）
〇自分らしさを生かし、他の人との違いを認め合う子どもを育てます。（徳）
〇健康や安全の大切さを認識し、生き生きと活動する子どもを育てます。（体）
〇人やものと豊かにかかわり合い、共に生きる子どもを育てます。（公）
〇コミュニケーションを通して視野を広げ、社会の変化に対応できる子どもを育てます。（開）

学校の特色	□東急田園都市線の青葉台駅近く、一戸建てやマンションが混在した閑静な住宅地と一部商業地域を含む学区にある。保護者の中には、榎が丘小学校出身者も多い。 □保護者地域は、協力的で、PTA活動も意欲的である。 □ベテランは少なくなってきているが、意欲的に授業を進める職員が育ってきている。 ■縦割り活動の継続で、メンバーシップは育ってきているが、自己有用感を育てたい。 ■基礎基本は、押さえられている子どもは多いが、意欲をより引き出し、主体的な姿勢へとつなげていく必要がある。

学 校 経 営 中 期 取 組 目 標

〇豊かなかかわり合いを大切に、一人ひとりが認められ磨かれる学校にします。
・意欲的にしっかり学習に取り組み、得意分野を伸ばします。
・かかわり合いながら自己の良さや他者の良さに気がつき、認め合い、多様性の中で高め合うようにします。
・居心地の良い集団の中で、思いやりや自己有用感が持てるようにします。
・保護者地域との連携を深め、学校・家庭・地域協働教育を進めます。

小 中 一 貫 教 育 の 取 組

青葉台中　ブロック：青葉台中学校、青葉台小学校、榎が丘小学校

9年間で育てる子ども像	・心身ともに健康で自他の生命を大切にする子　・互いを認め合い、自己を大切にできる子 ・自ら進んで学び、またともに学び合える子　・地域を大切にし、共生できる子
自校の具体的取組	・9年間で、具体的に目指す姿を3校で共通理解をもつ。 ・児童の特性や小中・小小を意識した学びを考え、授業の質を高める。 ・中学校との連携、異年齢集団の活動から発達段階に応じたメンバーシップを育てる。 ・中学校区学校運営協議会を通して、地域、保護者の連携のみならず、小小の連携にもつなげる。

重点取組分野	取 組 目 標	具 体 的 取 組
確かな学力 担当　学習評価推進部	意欲を高める工夫をし、主体的に学習を進め学習したことを活用し探求する姿勢を育てる。学び方を改善し、総合的に理解を深めさせる。自信を得意分野につなげる。	①高学年ブロックでの教科担任制の推進と、低・中学年での交換授業等、柔軟な指導体制の確立を進める。専門性の高い授業や個に応じた授業により児童が得意分野をもてるようにする。②体験的な学習や問題解決的な学習の推進とともに、授業改善や言語活動の充実を図る。
豊かな心 担当　児童支援部	いじめを防止する取り組みを進める共に、親和的な集団を育てる。自他を大切にする気持ちを育てると共に自己有用感を持たせる。多様性の中で育てる。	①全学年が自己有用感を得られる年間を通じたたてわり活動や特別活動の充実。②教育活動の中で、児童が一人一人のよさやがんばりを認め合う場面を増やし、親和的な集団の育成を図る。③ルールやきまりを守ることの指導と相手を意識した挨拶運動の推進。⑤音楽会や鑑賞教室など、芸術文化を体験する場の設定をする。
健やかな体 担当　健康安全指導部	運動する楽しさを実感し、進んで運動に取り組む子供が増えるように、体力向上の取組の継続推進。保健と食育を関連させて取り組む。	①長縄大会、マラソン、3UPランドは改善・継続する。 ②給食や体格との関わりから体力向上を考え、自分の体への気づきを促し、健康について考えられる取組をする。 ③栄養士、養護教諭と保護者との連携を図り、食育の活動に取り組む。
コミュニケーション能力の育成 担当　重点研推進部	かかわり合いを持つことでその楽しさや相手の良さに気づく。メンバーシップを育て、自己有用感を育てる。	①学年ごとに目指す姿を系統表などにまとめ、子どもが「つくる」学びのイメージを共有しながら研究を進める。②学年別テーマを固定し、昨年度の成果をもとに検証しながら、コミュニケーション能力の育成を図るより効果的な展開、人・もの・こととの出会いの場面のあり方を追究する。③他教科等、行事等との関連性を考慮に入れながら作成したカリキュラムを検証する。
特別支援教育 担当　特別支援コーディネーター	配慮を必要とする児童の困り感を職員全体で把握し、状況に応じた学級、学年経営や指導。児童に対するよりよい支援体制の充実を図る。	①児童理解、児童指導力の向上を目指し、研修の場を設定する。②Y－Pアセスメントなどを活用し、学級集団を把握し、一人一人の児童支援に生かす。③保護者との連携を図る。④児童一人一人の困り感に応じた個別支援計画の作成と支援の推進に努める。⑤スクールカウンセラー、療育センターあおばとの連携。⑥特別支援Coを中心としたチームとしての取組の推進。
地域連携 担当　教務部	9年間を見据えた指導を考え、学校、保護者、地域が協働していくことを推進する。地域、保護者の力を教育活動に生かす。	①学校運営協議会を通した評価を受ける。また、地域保護者等との連携を進める。（小中、小小の連携にもつなげる。）②授業、特別活動に地域の教育力を活用する。③PTA行事、地域行事への参画。④民生委員主任児童委員との連携を図る。（授業参観、懇談会など）
安全管理 担当　健康安全指導部	危機管理およびその対策について意識を高める。災害に対する避難方法、経路の等の確認をする。地域、保護者とも連携して、安全教育を進める。	①年度始めに防犯・防災対応について周知を図る。②安全管理について、中学校ブロックと引き続き協議の場をもつ。③安全な登下校への意識を高められるように指導の充実を図る。④安全・健康面でメール配信やプリントで注意喚起する。⑤社会情勢に対応した防犯・防災対応の修正をする。
いじめへの対応 担当　いじめ防止対策委員会	一人一人に居場所があり、親和的な集団を育てる。いじめの早期発見に努めるとともに、迅速、丁寧、真摯な対応をする。	①だれもが安心して豊かに生活できる集団を育てる。 ②アンケートや児童一人一人への教育相談を定期的に実施し、実態把握に努める。③Y－Pアセスメントを実施し未然防止につなげる。④研修などを通して、職員のいじめ防止への意識を高める。⑤いじめ防止対策委員会を設置して定期的及び臨時的に開催するとともに、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組む。⑥専門家のアドバイスも受けながら再発防止の取り組みを進める。
人材育成・組織運営 担当　教務部	分掌や取組の引き継ぎを計画的に行うとともに、学校評価をもとに組織の改善をはかる。経験、年齢にとらわれず、指導的立場の人材育成の推進。	①低・中・高学年ブロック、学年研での役割や責任を明確にし、人材育成への意識を高める。②正確な事務処理、個人情報の確実な取り扱いを行うための活動の継続。③指導効果の向上や多忙化解消をし子どもと向き合う時間の確保を目指した指導計画や学習環境の見直し。